

「君は最後の晩餐を知っているか」 着眼点と表現の特徴・構成まとめ

君は「最後の晩餐」を知っているかあらすじ

君は「最後の晩餐」を知っているかあらすじ

イタリアの天才画家「レオナルド・ダ・ヴィンチ」。
彼は「解剖学」「遠近法」「明暗法」を研究した新しい絵画を生み出したのだ。
私が「かっこいい。」と思った名画「最後の晩餐」はイタリアのミラノにある修道院の食堂の壁に描かれている。
最後の晩餐に描かれているのは、刑に処されるキリストと、その弟子たち。
「この中の1人が私を裏切るだろう」とキリストが予言すると、弟子たちは驚きざわめく。
この弟子たちの動揺を表す手のポーズを上手く描くことができたのは、レオナルドが解剖によって人の体の仕組みを知りつくしていたからだ。
遠近法を使うことによって、絵には奥行が生まれ、同時に主人公であるキリストに視線が集まるようになっている。
絵の中の明暗は、実際の食堂に差し込む光の方向と一致しているため、絵の中の世界はまるで現実の延長にあるように感じられる。
このように解剖学・遠近法・明暗法のような「絵画の科学」を究め、その可能性を目のあたりにさせる「最後の晩餐」。
だから私は「かっこいい。」と思うのだ。
「最後の晩餐」は描かれてから500年もの月日経っている。
修復されたものの、細かい部分はもはや戻らない。
しかし、だからこそ細部にとらわれることなく、「全体」がよく見える。
レオナルドが絵画の科学を駆使して表現しようとしたものが、かえってとても良く見えるのだ。
だからいきなり「かっこいい。」と思えるのだ。
そういう意味で、本当の「最後の晩餐」は21世紀の私たちが初めて見たのかもしれない。
レオナルドが描きたかった本当の「最後の晩餐」を。



「最後の晚餐」とは



作者	レオナルド・ダ・ヴィンチ
何を描いたものか	イエス・キリストが十字架にかけられる前夜に、弟子たちと行った最後の晚餐(食事)の様子
描かれた時代	十五世紀末 (1495~1498年)
どこに描かれたのか	イタリアのミラノにある「サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院」の食堂の壁

「最後の晚餐」とは

作者:レオナルド・ダ・ヴィンチ

描かれた時代:十五世紀末

どこにあるのか:ミラノ(イタリア)にある修道院の食堂の壁画に描かれている



「最後の晚餐」の内容

絵に描かれているのは、大きな食卓の中央に座るイエス・キリストと、そのまわりに集まる12人の使徒（弟子のこと）。

キリストが弟子たちと食事を食べようとしているところだね。

でもこの絵は、ただの食事の風景というわけではないんだ。

このときキリストは、「お前たち弟子の中の1人が私を裏切るだろう」ととんでもない予言をしたんだ。

それを聞いた弟子たちが驚いている様子を描いているのが「最後の晚餐」なんだよ。

実際にキリストはこの食事会の翌日に、十字架にかけられる「磔^{はりつけ}」の刑を受けることになってしまったんだ。

この食事会が最後になったということだね。

晚餐とは、ごちそうの出る夕食のこと。

弟子たちとの最後の夕食だから、「最後の晚餐」というんだね。

「最後の晚餐」はいつ描かれたの？どこにあるの？

イタリアのミラノにある
「サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院」



カトリック教会の聖堂。
修道院とは、修道士や修道女が一定の規律を守って共同生活を営む僧院。



「最後の晚餐」が描かれているのは修道院の食堂の壁。
第二次世界大戦で修道院は空襲を受けたけれど、「最後の晚餐」の前に土のうを積み上げてあったので、絵は守られてと言われているよ。

高さ4.2メートル、幅は9.1メートルもあるよ



最後の晚餐が描かれたのは、十五世紀末。
1495年から1498年の3年間にかけて描かれたよ。

「最後の晚餐」は、キャンバスに描かれた絵ではないんだ。
なんと、イタリアのミラノにある「サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院」の食堂の壁に描かれたものだよ。

その絵の大きさは、高さ4.2メートルで幅は9.1メートルもあるんだ。
キリンの全長が訳4.2メートル、マンションの3階分の高さが9メートルだよ。

奇跡の絵「最後の晚餐」

レオナルドの「最後の晚餐」は、その内容の素晴らしさはもちろんのことだけれど、「今でも存在していることが奇跡の絵」としても特別なんだ。

まず、食堂に描かれた絵であることから、食材の湯気や油汚れのせいで劣化が激しかったんだ。

5回ほど大きな修復がされたんだけど、このときの修復家のレベルが悪くなくて、余計に汚れてしまったり、オリジナルの絵具が落ちてしまったり、加筆がされたりしてしまっただんだ。

中には壁から絵を剥がそうとして失敗して、亀裂を作ってしまった修復家もいたよ。

さらに食堂と台所を出入りするために、絵の一部に扉が作られてしまって、その部分は完全になくなってしまったんだ（下中央の部分）。

そして食堂ではなく馬小屋として使われたこともあって、さらに汚れてしまったり、ミラノで起きた2度の大洪水で、絵全体が水浸しになったこともあったよ。

ここまででもとんでもないのに、きわめつけはミラノが空襲にあったとき。

サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院も空爆をうけて、食堂の屋根も半分崩れてしまったんだ。

このとき、絵を守ろうと、土のうを絵の前に積んでいたおかげで壊されずにすんだんだ。それから3年間も屋根がないままの中、雨や風にさらされながらも「最後の晚餐」は奇跡的に残ったんだよ。

現在はサンタ・マリア・デッレ・グラツィエ修道院も残っていた設計図をもとに復元されて、「最後の晚餐」は世界遺産に認定されているよ。



レオナルド・ダ・ヴィンチとは

レオナルド・ダ・ヴィンチはイタリア（当時はフィレンツェ共和国だったよ）の芸術家。あの有名な「モナ＝リザ」を描いた人で、史上最高の画家とされているんだ。

レオナルド・ダ・ヴィンチ
(1452~1519)

ルネサンス期を代表するイタリアの芸術家。
画家としてだけでなく、あらゆる分野を極めた大天才。

ダビンチの夢は「空を飛ぶ」こと。色々な空を飛ぶための機械を考えてイラストに残していたよ。

ダヴィンチの残した手稿は鏡文字で書かれているよ！

代表作のモナ・リザは世界で最も有名と言われている絵画



日本ではよく「ダヴィンチ」と呼ばれるけど、「ダ・ヴィンチ」は「ヴィンチ村出身」という意味で、つまり「ヴィンチ村出身のレオナルド」ということなんだ。だから、本当は「レオナルド」と呼ぶのが正しいんだって。

レオナルドは、画家としてだけではなく、解剖の研究をしたり、発明家としての才能も持ったまさに「神にえられた大天才」のような人。

なんと、当時はまだ存在なんかしなかったヘリコプターや戦車、自転車のようなものをイラストで残しているよ。



「最後の晚餐」と解剖学

レオナルドは「最後の晚餐」を描くときに、「解剖学」「遠近法」「明暗法」を駆使しているよ。

それぞれがどのような手法で、どういう効果が生まれているのか整理しよう。

解剖学（人体の科学）

人体の骨格や筋肉の研究をしていたレオナルドは、手の動きや表情で人物の内面や心情を表現しているよ。



小ヤコブ アンデレ ヨハネ トマス フィリポ タダイ
バルトロマイ ペトロ ユダ 大ヤコブ マタイ シモン

キリストを真ん中にして、使徒が3人ずつのグループになって左右に6人ずつ描かれているよ。

キリストが「あなたがたのうちの一人が私を裏切ろうとしている」と予言をし、その言葉に使徒が動揺してざわめいているシーンなんだ。

中央のキリストから、端にいる使徒までに動揺が伝わる様子を、本文では「丸い水紋が広がるよう」と比喻しているよ。

「解剖学」とは、人間の体の仕組みを研究するために、人の体を解剖する学問のこと。レオナルドは、解剖の研究をすることで、「人の骨がどうやって組み合わさっているのか」や「筋肉はどこに、どんなふうにあるのか」を知り尽くしていたんだ。

「最後の晚餐」は、キリストが「裏切るものがある」と予言したことで、弟子たちが驚いてざわめいている様子を描いているんだよね。

レオナルドは、絵の中の人物の表情や手のポーズで、「驚き」や「悲しみ」「疑惑」「怒り」「とまどい」などの複雑な感情を表しているんだ。

人体の仕組みをよく知っているレオナルドだから、表情や手のポーズに複雑な感情を表現することができたんだね。

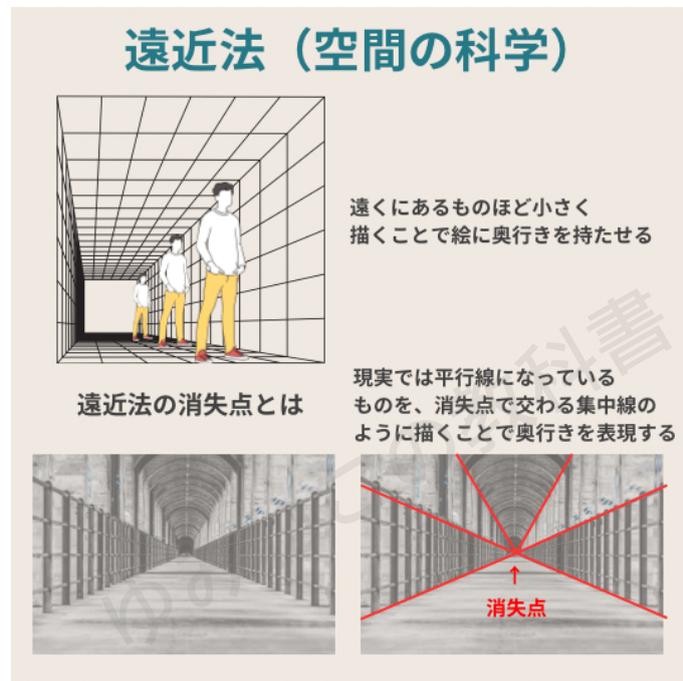
この中でキリストの左2人目にいる「ユダ」が、裏切り者なんだ。

ユダは、キリストの情報を売った対価として受け取った銀貨30枚の入った袋を握りしめているよ。





「最後の晚餐」と「遠近法」



レオナルドは、「最後の晚餐」に遠近法を取り入れることで、2つの効果を生み出しているんだ。

効果①奥行きを感じさせる

ぼくたちが実際にいるこの世界は、「3次元^{じげん}」だよな。

「高さ」「幅」「奥行き」の3つの方向があるということだね。つまり「立体」の世界。

それに対して、最後の晚餐は絵なので、「2次元」の世界なんだ。

「高さ」と「幅」しかない「平面」の世界。

「遠近法」とは、そんな2次元の世界に「奥行き」も表現することで、まるで3次元のように感じさせる技法だよ。

レオナルドは、この遠近法を使うことで、絵の中に奥行きを感じさせているんだ。

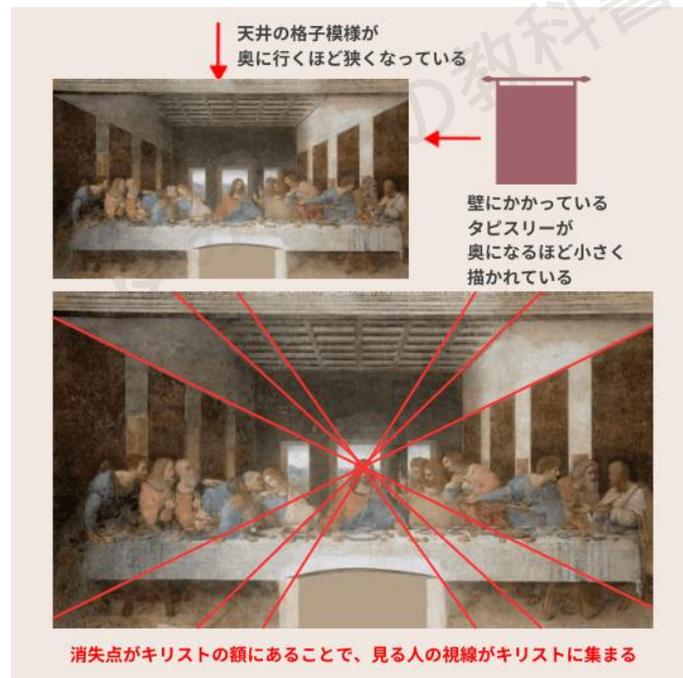


効果②キリストに視線が集まる

遠近法を使う時には、絵の中に描かれる平行なものの線を、遠くに行くほどお互いに近づいていって、最後は1つの点に集まるように描くんだ。

その点のことを「消失点^{しょうしつてん}」というよ。

最後の晩餐では、この「消失点」がキリストの額（右こめかみ）部分と重なっているんだ。



消失点は、「線が集まっていく点」だから、つまり主人公であるキリストに「視線が集まっていく」効果が生まれるんだ。

すごいのは、レオナルドはこうなるように「計算して」描いているところだね。

キリストの右こめかみ部分には、レオナルドが消失点を設定するために打った釘の跡が見つかっているよ。



「最後の晚餐」と「明暗法」



「明暗法」とは、絵の中の物や人物に光があたって「明るいところ」と「暗いところ」ができてるように描き分ける技法のこと。

明るい色と暗い色で描き分けることで、「明るい色の部分＝光があたっている」「暗い色の部分＝光があたっていない」ように感じさせることができるよね。

「最後の晚餐」ではこの明暗法で、絵の中に「光があたっているところ」と「光があたっていないところ」が描き分けられているんだ。

そしてその「光があたっているところ」と「光があたっていないところ」が、絵が描かれている食堂の壁に差し込む実際の光の方向と同じになるようになってきているんだ。

もちろんこれも、たまたまではなくて、レオナルドが計算をしてそうしているんだね。そうすることで、まるで絵の中と実際の世界がつながっているように感じるんだ。



「君は最後の晩餐を知っているか」筆者の表現の特徴と構成

「君は最後の晩餐を知っているか」は、「評論文」。

評論文とは

あるテーマについて、筆者の「主張」の正しさを論理的に導き出すために、その主張を支える根拠をあげて読み手に納得させるための文章。

「君は最後の晩餐を知っているか」は、21の形式的段落に分かれているね。本文は、「序論」「本論」「結論」の3つに大きく分けることができるよ。

構成	段落	内容
序論	1～4段落	レオナルド・ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」を見たとき、なぜか「カッコいい」と思った。彼の絵は、全く新しい「科学を用いて描かれた絵」なのだ。
本論①	6～11段落	※5段落目で「最後の晩餐」とは何かを紹介している 解剖学（人体の科学）によって人物の心の動きを表しているのである。
本論②	12～13段落	遠近法（空間の科学）によって計算して描かれた設計図のような絵ともいえる。
本論③	14段落	明暗法（光の科学）によって計算して描かれた絵は、まるで本物のように見える。
本論④	15～16段落	【本論のまとめ】 解剖学・遠近法・明暗法という絵画の科学が、「最後の晩餐」を「カッコいい。」と思わせるのだ。
結論	17～21段落	修復された「最後の晩餐」には細かい部分が無いからこそ、絵の全体が見えるようになり、レオナルドが絵画の科学を駆使して表現しようとした本当の「最後の晩餐」を二十一世紀の私たちが初めて見れるのかもしれない。

評論文の構成

- ①序論：テーマ・主張の提示
- ②本論：理由の説明
- ③結論：筆者の主張



筆者の布施英利（ふせひでと）さんは、最後の晚餐の「かっこよさ」をテーマに作品の魅力を読み手に主張しているね。

布施さんが「最後の晚餐」で着目したのは、「解剖学の知識が活かされていること」「遠近法が効果的に取り入れられていること」「明暗法が効果的に取り入れられていること」。

これらをふまえて布施さんの「君は最後の晚餐を知っているか」の構成をまとめたよ。

筆者	布施英利
文の種類	評論文
テーマ	「最後の晚餐」のかっこよさ
着眼点	「解剖学」「遠近法」「明暗法」
構成	まず「解剖学」「遠近法」「明暗法」などの作品のもつ特徴と、「かっこいい」と感じたというテーマから述べ（序論）、それぞれの詳細や理由を解説し（本論）、最終的に筆者の主張を述べている（結論）
表現の特徴	主観的立ち位置から述べている 読み手に語りかけるような表現

「君は最後の晚餐を知っているか」筆者の表現の工夫

「君は最後の晚餐を知っているか」の文章の中には、最後の晚餐の魅力を読み手に伝えるために「^{ひゆ}比喩」が使われているんだ。

比喩が使われている部分①

「最後の晚餐」を見たときの印象を比喩で表現しているよ。

「まるで芝居の幕まくが開いて、舞台の上でドラマが始まったかのようだ」

「まるで」…「ようだ」という言葉が使われていることから、比喩表現だということがわかるね。

ちなみに、比喩表現だとはっきりわかる言葉が使われているものを、「^{ちよくゆ}直喩」というよ。



こうやって「芝居の幕」や「舞台」「ドラマ」というキーワードを使うことで、「最後の晚餐」の持つ「ドラマティックさ」を読み手に伝えようとしているんだね。

比喩が使われている部分②

「静かな水面に小石を投げると丸い水紋すいもんが広がるように、隣の人物へ、さらに隣の人物へと、動揺が伝わる。」

「…ように」という言葉が使われていることから、ここも比喩表現ということが読み取れるね。

これも直喩だね。

キリストが「弟子の1人が裏切る」と予言をしたことで、弟子たちのあいだに動揺が伝わる様子を、「静かな水面に小石を投げると丸い水紋が広がるように」と比喩を使って書くことで、より読み手にイメージしやすいように伝えようとしているんだね。

「君は最後の晚餐を知っているか」着眼点・筆者が「かっこいい」と感じたこと

「かっこいい。」という言葉は3回も登場するよ。それだけ重要なキーワードなんだね。

ひとつ目の「かっこいい。」

「私は、この絵を見たとき、なぜか『かっこいい。』と思った。」

筆者が「最後の晚餐」を見たときのことだね。

「なぜか」と書かれているように、ここではまだ『かっこいい。』と思った理由は説明されていないよ。

「なぜか『かっこいい。』と思った」と書くことで、「どうして『かっこいい。』と思ったんだろう??」と読み手に興味を持たせる効果があるね。



ふたつ目の「かっこいい。」

「レオナルドが究めた絵画の科学と、そのあらゆる可能性を目のあたりにできること。これが、「最後の晚餐」を「かっこいい。」と思わせる一つの要因だろう。」

「最後の晚餐」には、「解剖学」と「遠近法」、「明暗法」が使われているという説明の部分で、ふたつ目の「かっこいい。」が使われているね。

レオナルドが「最後の晚餐」を描くために、絵画の科学を駆使していることに感動して、筆者は「かっこいい。」と思ったんだね。

みつつ目の「かっこいい。」

「レオナルドが、絵画の科学を駆使して表現しようとしたものが、とてもよく見えてくる。だから、いきなり「かっこいい。」と思えるのだ。」

「最後の晚餐」は修復されたものの、細かい部分は消えてしまっているんだよね。

でも、そのおかげで逆に全体がよく見えるようになって、レオナルドが「解剖学」「遠近法」「明暗法」を駆使して「最後の晚餐」を描きあげているのだということがよく分かる。と筆者は考えているんだね。

全体がよく見えるおかげで、レオナルドが表現しようとしたものがよく見える。だから見たとたんいきなり「かっこいい。」と思ったということだね。



完成したばかりの「最後の晚餐」は細部の描き込みのすごさに目を奪われてしまい本当の魅力が「見えなかった」かもしれない。

「本当の魅力」とは・・・
レオナルドが究めた絵画の科学とそのあらゆる可能性
彼が絵画の科学を駆使して表現しようとしたもの

細部が落ちて消えてしまったが、かえって絵の「全体」がよく見えるようになった

「全体」がより明快に見えるようになったことで、
レオナルドが描きたかった本当の「最後の晚餐」が見えるようになってきたのかもしれない。




「君は最後の晩餐を知っているか」筆者の主張

布施英利さんは、この「君は最後の晩餐を知っているか」で、次のことを読者に主張しているよ。

「君は最後の晩餐を知っているか」筆者の主張

- ・レオナルドの絵はそれまでの絵画とは違う、絵画の科学を駆使した新しい絵画である
- ・レオナルドが究めた絵画の科学と、そのあらゆる可能性が「最後の晩餐」を「カッコいい」と思わせるのだ
- ・細部が消えてしまったことによって、「全体」がより明快に見えるようになった「最後の晩餐」は、レオナルドの意図がとてもよく見えるので、いきなり「カッコいい」と思えるのだ
- ・細部が消え全体がよく見えるようになった今こそ、レオナルドが絵画の科学を駆使して表現しようとした本当の「最後の晩餐」を見ることができのかもしれない
- ・芸術は永遠なのだ

「芸術は永遠なのだ」とはどういう意味なのかは、読み手の受け取り方にもよるけれどまとめてみたよ。

「最後の晩餐」は五百年も前に描かれた絵だよね。

その細部は剥がれ落ちてしまってもいる。

けれど、その絵に込められた天才レオナルドの「絵画の科学」は、今もなお見るものを「カッコいい」と魅了しているよね。

それどころか、細部がなくなったからこそ、レオナルドの意図がはっきりと見えてきて、「いきなりカッコいい」とさえ思えるんだ。

本当の名画とは、本当の芸術とは、長い年月が経ち完全な状態で残っていなくとも、人の心を永遠にとらえるものだ。ということを伝えたいのではないかな。

ぜひみんなも、自分の言葉で考えてみよう。



「君は最後の晩餐を知っているか」新出漢字

語句	漢字
かいぼう 解剖	剖(ボウ)
りくつ 理屈	屈(クツ) ^{くっし} 屈指
しょうげき 衝撃	衝(ショウ) ^{しょうとつ} 衝突・ ^{しょうどう} 衝動
しばい 芝居	芝(しば) ^{しばふ} 芝刈り・芝生
すいもん 水紋	紋(モン) ^{はもん} 波紋・ ^{もんよう} 紋様
たっけい 磔刑	刑(ケイ) 刑事・刑罰
たく 託す	託(タク) ^{たくじ} 託児・ ^{しんたく} 信託
ようぼう 容貌	貌(ボウ) ^{びぼう} 美貌・ ^{ふうぼう} 風貌
てんじょう 天井	井(ジョウ・い・セイ) ^{いど} 井戸
せま 狭い	狭(キョウ・せま・せば) ^{せば} 狭まる・
ぐうぜん 偶然	偶(グウ) ^{ぐうすう} 偶数・ ^{ぐうぞう} 偶像
しきさい 色彩	彩(サイ・いろど) ^{いろど} 彩り・ ^{さいしよく} 彩色
すで 既に	既(キ・すで) ^{きせいひん} 既製品・ ^{きじゆつ} 既述
りんかく 輪郭	郭(カク) 城郭



「君は最後の晩餐を知っているか」 語句の意味

語句	意味
やはり	予想通りであること。 【本文】やはりレオナルド・ダ・ヴィンチではないだろうか。
動揺	うろたえること。不安になること。 【本文】その周りで動揺している男たち
しついで 失意	がっかりすること。 対義語：得意 【本文】驚き、失意、怒り、諦め…。
げんり 原理	多くの物事を成り立たせる、根本的な法則のこと。 【本文】遠近法の原理が使われている。
ぐうぜん 偶然	たまたま起こること。 対義語：必然 【本文】これは、描かれた絵が偶然そうになったということではない。
ま 目のあたり	目の前のこと。直接。 【本文】そのあらゆる可能性を目のあたりにできること。
あくまで	どこまでも。 【本文】修復の作業は、あくまで汚れを落とすことと
くし 駆使	思いのままに使うこと。 【本文】絵画の科学を駆使して表現しようとしたものが
かんたん 感嘆	感心すること。感動すること。 【本文】細部の描き込みのすごさに息をのんで、感嘆したのかもしれない。
うば 目を奪われる	すばらしい様子に見とれること。 【本文】しかし、そういうものに目を奪われて



「君は最後の晩餐を知っているか」まとめ

- ・最後の晩餐は、刑に処されるキリストが弟子たちと最後の夕食を食べる様子の絵。
- ・「弟子の1人が裏切る」というキリストの予言に、弟子たちが動揺している様子が描かれている。
- ・「解剖学」によって人体の仕組みを知り尽くしているので、手や表情に動揺を表現できている。
- ・「遠近法」によって絵の中に奥行きを出し、キリストに視線が集まるようにしている。
- ・「明暗法」によって絵の中の光の方向と現実の光の方向を一致させて、現実と絵の中の世界につながりをもたせている。
- ・レオナルドが究めた絵画の科学と、その可能性を目のあたりにできることが「カッコいい。」と思う理由。
- ・細かいところが消えてしまった分、全体がよく見えるようになり、レオナルドが表現しようとしたものがよく見えることが、いきなり「カッコいい。」と思う理由。
- ・筆者は比喻を使って、最後の晩餐の魅力を読み手に伝えようとしている。

